

## 国立国府台医療センター・精神科専門研修プログラム

### 基幹施設名称：

国立健康危機管理研究機構 国立国府台医療センター

### 連携施設：

- ・国立国際医療センター (東京都新宿区)
- ・国立精神・神経医療研究センター病院 (東京都小平市)
- ・みさと協立診療所 (埼玉県三郷市)
- ・みさとメンタルクリニック (埼玉県三郷市)
- ・メンタルヘルス診療所しつぽふぁーれ (千葉県市川市)

### 研修コース：

- ・国立国府台医療センター基本コース
- ・国立国際医療センター重点コース
- ・みさと地域重点コース

### 〈国立国府台医療センター・精神科の特徴〉

2025年に創設された健康危機管理研究機構の一翼を担っていくこととなりましたが、これまで通りに総合病院機能を有する基幹型臨床研修病院であり、多くの若手医師と身体科の情熱ある指導医と協働しています。

精神科は、千葉県精神科救急医療システムの基幹病院に指定されており、精神科救急症例・身体合併症症例を含め、豊富な症例を経験できます。統合失調症圏、気分障害圏、認知症あるいは器質性精神障害、中毒性精神障害など多彩な症例の治療をチーム制で実践しています。24時間精神科救急診療を行っています。

また、児童精神科は独立した診療及び研修体制ですが、精神科病棟に入院した児童症例では密接な連携がなされ、基本コースでも十分な児童青年期症例の研修が可能です。多職種による包括型地域生活支援プログラム（ACT）を国府台地域で実証してきた経緯もあり地域支援機関との連携も活発に実践しています。専攻医が、経験すべき症例および治療場面の全てを、網羅しています。

治療抵抗性統合失調症のクロザピン治療は、200例以上に実施してきました。統合失調症患者の家族心理教育の効果を実証してきました。患者の心理教育、グループ認知行動療法を実施しています。修正電気けいれん療法は毎週カンファレンスで適応を確認しながら年間500件以上実施しています。

その他の特徴として、新規向精神薬の治験、海外協力にも取り組んでいます。

専攻医は、多忙であるが充実した研修が可能です。

#### 〈国立国府台医療センター・児童精神科の特徴〉

\*子どものこころ専門医は、小児科あるいは精神科を基本領域とするサブスペシャリティ専門医として正式に位置づけられました。研修開始は、小児科あるいは精神科専門医研修が修了してからとなり、基本領域専門医研修との重複は認められておりません。ご注意ください。

国立国府台医療センターは戦後まもなくから児童精神科専門病棟を運営してきた歴史があり、専門病棟を持つ唯一の国立高度医療研究センターです。その治療は同年代の仲間関係を利用しながら、子どもたちの主体性を伸ばし、一人でも多くの子どもが社会に参加していけることを目指した臨床と研究を実践しています。また、子どもに関わる様々な職種のスタッフが児童思春期精神医学の考え方や各治療技法を理解し習熟できるよう、医療、教育、福祉に関係する専門家の研修に寄与することも活動目標の一つとしています。

当院の特徴として精神科開放病棟である児童精神科病棟(45床)を持ちます。長期の不登校児に対して社会参加の経験を増やすために、キャンプなどの活動的集団療法があります。また、小児の摂食障害も治療しています。

実際に行われている治療は、力動的な精神療法、薬物療法、認知行動療法、集団療法、ペアレントトレーニング、集団親ガイダンスであり、各種カンファレンスでの指導や個別のスーパーバイズを受けることができます。

幾つかの臨床研究も実践されております。精神科専門医取得後に児童精神科の専門的な研修をする場合には、興味のある分野での臨床研究の立案から論文作成まで可能であり、児童青年精神医学会の認定医を取得に向けた症例を経験することができます。

なお、当院の児童精神科での研修の場合には、専門病棟で子どものケースのみを担当する特徴があり、児童精神科研修に集中できる特徴があります。豊富な症例と、経験豊かな常勤医たちの指導もあり、多くのレジデントの育成をしてきた実績もあります。そして、同世代の専攻医たちと一緒に働くことも魅力の一つです。

#### 〈専門医研修プログラムの特徴〉

国立国府台医療センター基本コース、国際医療センター重点コース、みさと地域重点コースの3つのコースがあります。プログラムの特色は、急性期医療から地域生活支援までアクティブに研修できること、及び身体合併症・精神科リエゾン診療を通して、精神及び身体両面から総合的に診療する能力を習得できるこ

とです。

研修基幹施設の国立国府台医療センターは、すでに記載したとおり、千葉県精神科救急医療システムの基幹病院に指定されており、精神科救急症例・身体合併症症例を含め、豊富な症例を経験できます。また、児童精神科は独立した診療及び研修体制ですが、精神科病棟に入院した児童症例では密接な連携がなされ、基本コースでも十分な児童青年期症例の研修が可能です。

国立国際医療センターは、創設された研究機構の中心として高度な総合医療を提供しています。東京都新宿区に在り、年間に 10000 件の救急車を受け入れる救急救命センター、国際感染症センター等を有しています。精神科病棟は休棟ですが、コンサルテーション・リエゾン診療では多彩な症例を経験することが可能であり、精神科リエゾンチーム、認知症ケアチーム、緩和ケアチームでの役割も学ぶことができます。

国立精神・神経医療研究センター病院は精神疾患、神経疾患、筋疾患及び知的障害その他の発達の障害に特化した国立高度専門医療研究センターです。気分障害、統合失調症、認知症、依存症、てんかん、睡眠障害等の専門外来があり専門家による高度な指導を受けながら貴重な症例を経験できます。全国で初めて医療観察法病棟を設置し、唯一身体合併症に対応した病床を有しています。多職種チームによる専門治療を学び、司法精神医学を専門とすることを希望する者は本研修コース終了後専門領域に進むことができます。併設されている研究所と協同での臨床研究が数多く行われており、臨床研究に関するセミナーを受講し、上級医の指導のもと研究協力者として参加し、学会発表、論文発表を行うことができます。

みさと協立診療所は、みさと協立病院を継承して 2026 年 4 月に発足しました。原則として、午前は外来診療、午後は訪問診療を行っています。生活の行き詰まりや社会的孤立から精神障害が悪化することが多いという事実に着目し、生活全般を視野に入れた支援に努めています。そして、市役所や保健所、相談支援センターやグループホームをはじめ、地域の様々な立場の方々と連携しています。当所での研修を通じて、対話を通じてともに学び合い支え合う関係を築きながら、地域生活支援および精神科リハビリテーションに重点を置いた実践を学ぶことができます。

みさとメンタルクリニックは、多機能型精神科診療所としての在り方を模索し、訪問活動の他、訪問看護ステーションや地域生活支援センターとの合同の検討会、特別支援学校との連携や地域での相談会への参加、特に精神科デイケア活動を柱として、当事者や多職種と共に行う話し合いを基にした精神科地域ケアを志向しています。専攻医の方々には、地域に暮らす方々と共に悩み創る、地域

生活支援を学ぶことができます。

メンタルヘルス診療所しっぽふぁーれは、市川市に在る訪問中心の診療所です。特定非営利活動法人 ACTIPS、訪問看護ステーション ACT-J が隣接し、ACT（包括型地域生活支援プログラム）や集中型のケアマネジメントを協働して実施しています。多職種による訪問型医療や支援の実務を経験できると共に、日本で展開している地域精神保健福祉ネットワークの一端を学ぶことができます。

#### 定員：

若干 名

#### 選考方法：

1次 書類審査

2次 面接審査

#### 応募先：

応募必要書類を簡易書留にて郵送して下さい。また、封筒には、「精神科専門医研修プログラムへの応募」と朱書き記載して下さい。

宛 先 〒272-8516 千葉県市川市国府台 1-7-1  
国立国府台医療センター  
管理課庶務係長 宛

#### 応募必要書類

- ① 申込書（当院指定のもの）
- ② 履歴書（当院指定のもの）
- ③ 大学卒業証書（写）
- ④ 医師免許証（写）
- ⑤ 保険医登録票（写）
- ⑥ 在職証明書（臨床歴を証明するもの。当院指定のもの）
- ⑦ 所属長の推薦状

#### 問い合わせ先：

国立健康危機管理研究機構 国府台医療センター  
管理課 庶務係長

TEL：047-372-3501

FAX：047-372-1858

E-mail：[kouedu@jih.go.jp](mailto:kouedu@jih.go.jp)

**注意事項:**

\* 医師（専攻医）は当専門研修プログラムへの採用後、研修施設群のいずれかの施設と雇用契約を結ぶこととなります。雇用契約には様々な要因があり希望の連携施設で必ず研修が可能とはなりませんので了承ください。

\* 本専門研修プログラムは、日本精神神経学会による一次審査を通過したものであり、今後、日本専門医機構による二次審査を踏まえて修正・変更があることを予めご承知おきください。